

浅间山の生立ち

浅间山は10万年前から何度も噴火をくりかえしてきた活火山です。



約10万年～2万年前 浅间山の前身である高貴火山が成長を続けていました。この火山は富士山に似た形で、標高は2,800メートル以上あったと推定されています。

約2万年前 水蒸気爆発によって山体が崩壊し、土石なだれが山麓に堆積しました。この時発生した泥流は、中之条や前橋付近でも厚く堆積しました。

約2万年～1万7千年前 山体崩壊により高貴形のカルデラが形成され、その中に仏前火山が形成されました。小窪山がつくられたのもこの時代です。

約1万7千年～1万1千年前 火砕流が何度も起き、とくに1万4千年前と1万1千年前の噴火では大規模な火砕流が発生し、南北両方向に30メートル以上の厚さで堆積しました。

約1万年～9000年前 仏前火山の上から溶岩流や火砕流、火山灰が繰り返し噴出して、新しい山体である新山が形成されました。

西暦1108(天仁元)年 大規模な噴火が起こり、噴石、火山灰、追分火砕流、舞台溶岩流などが噴出しました。

西暦1783(天明3)年 大規模な噴火で噴石、火山灰、噴石なだれ、天明泥流、香掛泥流、鬼押し溶岩流などが発生し、大災害になりました。

歴史時代の主な噴火災害

昔の記録に残っている浅间山の噴火災害のうちとくに被害が大きかったものを紹介します

天明の噴火

天明の噴火は、1783(天明3)年5月9日[※]に始まってから、噴火したり収まったりを繰り返しながら、次第に活動が大きくなっていきました。7月27日[※]頃から噴火が連続するようになり、8月4日から5日[※]にかけて、最も激しい噴火が起こりました。

発生した現象	火山灰・噴石・香妻火砕流・鎌原土石なだれ・天明泥流・香掛泥流・鬼押し溶岩流
主な被災地域	山麓の鎌原集落・香妻川沿いの地域(当時の軽井沢町)
死者	1400名以上
倒壊家屋	1000棟以上



天明の噴火時に香妻川沿いに流れた火山泥流(浅间山権香妻川附村々絵図(藤原道氏模写))



天明泥流の流下範囲
1783(天明3)年の噴火で発生した泥流の流下範囲を示しています。
天明泥流が発生の原因になった「鎌原土石なだれ」の流下範囲を示しています。



天仁の噴火

1108(天仁元)年にも、浅间山は大噴火を起こしました。古い時代のことなので天明の噴火ほどの記録は残っていませんが、中御門右大臣藤原宗忠の書いた「中右記」に噴火のときの様子が記されています。

発生した現象	火山灰(前橋で20センチメートル以上の厚さに積もりました)・噴石・追分火砕流(約80平方キロメートル以上を覆いました)・舞台溶岩流
	[火山噴出物の量は天明の噴火の2倍以上]



天明の噴火時に高温の軽石や火山灰から逃げまどう人々(浅间山権昇之記)

「国内に麻間峯という高山がある。治暦年間(1091～1094)に煙を噴いたが、その後しばらく収まっていた。天仁元年七月二十一日に猛然と噴火を始め、煙は天まで登り、砂塵は国内に降りそそぎ、国内の田畑は全滅してしまった。一国の被害でこれほどひどい例は未だかつてない。稀な不思議の事件なので記し置くものである。」
『中右記』の現代語訳

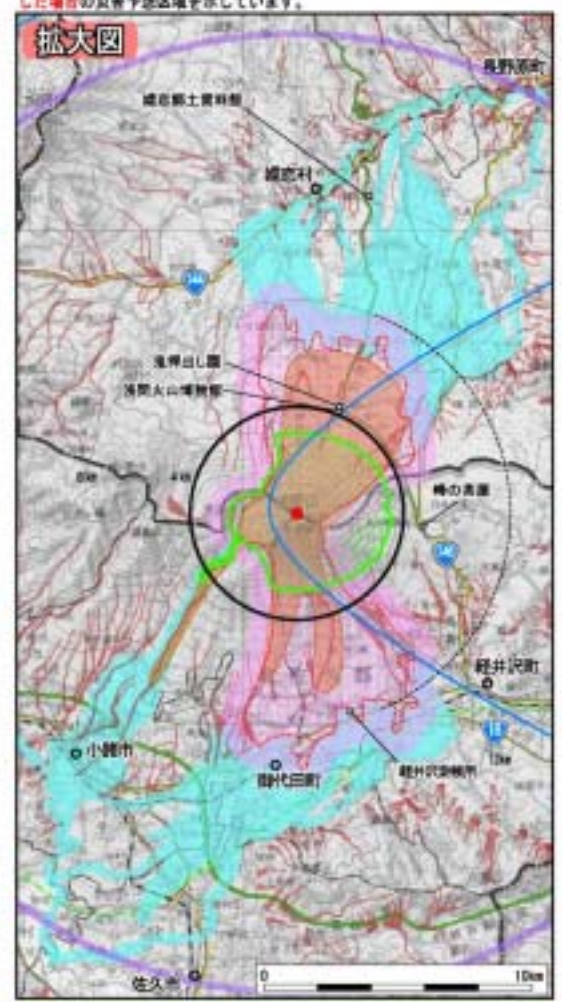


もしも天明の噴火のような大噴火がおきたら...

浅间山は過去2千年間に3回の大噴火を起こしました。たくさんの方を助けた「天明の噴火」もそのうちのひとつにあたります。



この図に示す2枚の予想図は、天明の噴火と同じような大規模な噴火が、浅间山の山頂火口から北側(新高貴側)あるいは南側(長野側)に向かって発生した場合の災害予想区域を示しています。



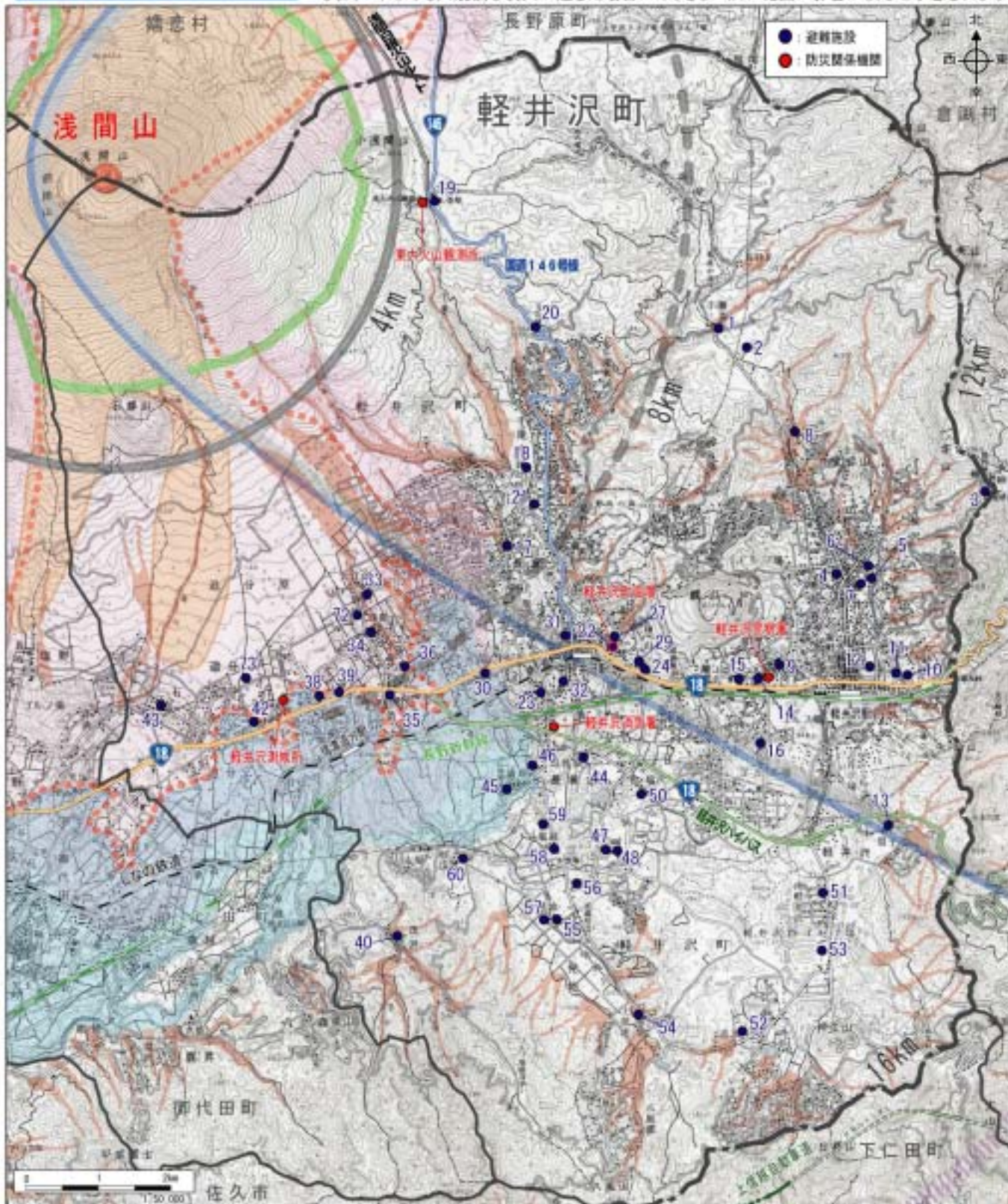
浅间山では、天明の噴火よりも大きな規模の噴火が起こることもあります。例えば、天仁の噴火は天明の噴火の2倍以上の規模でした。もしも、天仁の噴火のような大規模な噴火が起きた場合には、左の図に示したよりもさらに広い範囲に火砕流や融雪型火山泥流の被害がおよぶと予想されます。

記号の色と意味	想定火口	火山ガス	噴石	空振	火山灰(降灰)	降雨時の土石流	火砕流と熱風	融雪型火山泥流	溶岩流
	浅间山の山頂火口を想定しています。	高温のガスが溜まりやすい予想範囲です。	実線: こぶしより大きい噴石が飛んでくる予想範囲です(半径4km)。破線: 風下側で小石が飛んでくる予想範囲です(半径8km)。	空振による被害を受ける予想範囲です(半径18km)。	火山灰が積もる予想範囲です。大規模噴火の時には軽石も混ざって降ります。	降雨時の土石流の流下予想範囲です。	火砕流と熱風の流下予想範囲です。	積雪期の融雪型火山泥流の流下予想範囲です。	溶岩流の流下予想範囲です。

避難施設

避難の際には、町役場からの指示に従って行動してください。避難が必要になった時には、防災行政無線やラジオ(FM軽井沢)などで町役場から噴火の被害を受けにくい避難施設が指定されます。

下に示した噴火の影響範囲は、天明の噴火と同規模の噴火が発生したときの予想範囲です。なお、これよりも大規模な噴火が起きた場合には、さらに広い範囲に影響が及ぶと予想されます。



避難に関する問い合わせ先 軽井沢町役場 電話0267-45-8111

地区別の避難施設一覧

地区	番号	施設名	所在地	電話(0267)
小瀬・長日向	1	レクの森遊歩小屋 レクの森キャンプ場	長倉国有林129区	42-8564
	2	小瀬遊歩小屋	長倉国有林129区	-
	3	夏場遊歩小屋 夏場台	神町41-3	-
神町・旧軽井沢	4	旧軽井沢公民館 旧軽井沢公民館駐車場	軽井沢207-1	42-3107
	5	旧軽井沢公民館 旧軽井沢公民館駐車場	軽井沢678-1	42-2981
	6	軽井沢町民会館	軽井沢739	42-5538
	7	旧軽井沢公民館	軽井沢604	42-4742
	8	三笠遊歩小屋	西山国有林138区	-
	9	軽井沢東部小学校	軽井沢1245	42-2684
	10	新軽井沢児童館	軽井沢東41-2	42-3009
	11	新軽井沢児童館	軽井沢東41-2	42-3008
新軽井沢・成沢	12	矢ヶ崎公園管理棟 矢ヶ崎公園	軽井沢東28-1	42-3524
	13	成沢地区コミュニティセンター	軽井沢1019-211	48-0027
	14	軽井沢高等学校	軽井沢1323-43	42-2390
	15	軽井沢高等学校グラウンド	長倉1894	42-5953
湖山・南ヶ丘	16	湖山地区コミュニティセンター	軽井沢1052-778	42-8227
	17	千ヶ滝西区公民館	長倉2139-742	48-1002
	18	千ヶ滝中区公民館	長倉2140-59	-
	19	峰の茶屋遊歩小屋	長倉国有林835区	-
千ヶ滝中区・西区・星野・塩巻	20	万山遊歩小屋	長倉国有林865区	-
	21	軽井沢スケートセンター	長倉2140	48-1111
	22	軽井沢児童館	長倉2381-1	48-8111
	23	軽井沢中部小学校	長倉3734	48-5189
中軽井沢・吉宿	24	軽井沢中学校	長倉2454	48-6180
	25	軽井沢町中央公民館	長倉2353-1	48-6448
	26	軽井沢町社会体育館	長倉2447-1	48-7772
	27	古指地区コミュニティセンター	長倉4430-1	48-0454
	28	中軽井沢区民会館	中軽井沢13-1	48-8049
	29	中軽井沢南児童館	長倉2859-3	48-0990
	30	大日向公民館	長倉5688-1	48-5590
	31	大日向遊歩台	長倉5527-1	-
大日向・浅間台	32	大日向運動場	長倉5538-1	-
	33	旧軽井沢遊歩台	長倉3456	-
	34	浅間公民館	長倉4634-1	48-8322
	35	浅間地区コミュニティセンター	長倉5420-1	48-1960
信濃・つくし丘・浅沢	36	軽井沢西部小学校	長倉1136	48-1052
	37	軽井沢西体育館	通分1241-78	48-1884
	38	浅沢公民館	浅沢940-1	48-1882
	39	浅沢公民館	通分523	48-2929
通分・三ツ石	40	三ツ石公民館	通分1678	-
	41	三ツ石公民館	長倉1779-1	48-1077
治井・島井原・塩巻	42	治井公民館	長倉1389-2	48-2998
	43	長倉地区児童館	長倉1629-11	48-2187
	44	長倉地区児童館	長倉182-3	48-2628
	45	軽井沢風越公園アリーナ	長倉1157-8	48-3433
南軽井沢・馬取・ニュータウン	46	助産者センター	長倉524	48-4515
	47	塩巻公民館	長倉1389-236	48-1913
	48	馬取公民館	長倉588-1	48-2848
	49	馬取公民館	長倉588	-
上奥地・下奥地・杉山・風越地区	50	軽井沢ゴルフ場	長倉1389-35	48-1211
	51	軽井沢ゴルフ場	長倉1389	-
	52	上奥地公民館	長倉1752	-
	53	下奥地公民館	長倉2300	48-1910
その他	54	軽井沢南体育館	長倉2560-1	48-6514
	55	南地区児童館	長倉2300	48-1231
	56	風越団地公民館	長倉1150-1	-
	57	浅間遊歩台 軽井沢南児童館	長倉957	48-7135
58	杉山公民館	長倉2854	48-6528	

登山規制については、軽井沢町のホームページをご覧ください。
「くらしの情報」-「いざというとき」-「地震・火山対策」-「浅間山噴火対策」
<http://www.town.kanazawa.nagano.jp/index.html>

記号の色と意味

想定火口	火山ガス	噴石	空振	火山灰(降灰)	降雨時の土石流	火砕流と熱風	融雪型火山泥流	溶岩流
浅間山の山頂火口を想定しています。	高濃度のガスが溢れやすいため予想範囲です。	噴石が飛んでくる予想範囲です(半径4km)。 噴石: 風下側で小石が飛んでくる予想範囲です(半径8km)。	空振による被害を受ける予想範囲です。(半径15km)	火山灰が積もる予想範囲です。大規模な噴火では積もる予想範囲です。	降雨時の土石流の流下予想範囲です。	火砕流と熱風の流下予想範囲です。	噴石の融雪型火山泥流の流下予想範囲です。	溶岩流の流下予想範囲です。

普段から災害に備えて

浅間山ではどのような噴火災害が考えられるのかこの「浅間山火山防災マップ」で知っておきましょう。

普段から非常持ち出し品を備えておきましょう。

地震に備えて家具の固定や壁の補強をしておきましょう。

避難する場合は...

- あわてず落ち着いて行動する。
- 戸締り、電気、ガスの元栓を確認する。
- 貴重品を忘れずに持つ。
- 市街地では車を使わず歩いて避難する。
- お年寄り、赤ちゃん、身体の不自由な人、外国人などの避難を助けましょう。

避難の格好

もし噴火がはじまったら?

気象庁が発表する「火山情報」に注意しましょう。

町長から避難勧告などの指示があった場合には従いましょう。

臨時火山情報がでたら、その後のニュースや役場の情報に注意しましょう。
緊急火山情報がでたら、いつでも避難できる準備をしましょう。

テレビやラジオ、役場の広報などから正しい情報入手し、デマやうわさ話にまどわされないようにしましょう。

災害用伝言ダイヤル(171)

避難時の安全情報の確認には、NTTの「災害用伝言ダイヤル」が便利です。

「易音なし」で「171」にかける。自動アナウンスにしたがって簡単に自分のメッセージを送ることができます。

知人の安全情報も送れます。

防災関係機関連絡先

機関名	電話番号
役場 軽井沢町役場	0267-45-8111
消防 軽井沢消防署	0267-45-8171
警察 軽井沢警察署	0267-42-0110
火山観測 気象庁 軽井沢観測所	0267-45-1304
東京大学 浅間山火山観測所	0267-45-7351
軽井沢町役場 水道課	0267-45-8657
ライフライン 中部電力 軽井沢サービスステーション	0267-42-2113
NTT東日本 長野支店(災害対策室)	026-225-4361
長野県 佐久地方事務所	0267-63-3111(代表)
国土交通省 利根川水系砂防事務所	0279-22-4177(代表)
財団法人 砂防・地すべり技術センター	03-5276-3272

避難のときの持ち出し品

噴火が長引くと、避難先で何日も暮らすことも考えられます。大切なものはすぐに持ち出せるよう、心がけておきましょう。

特に火山噴火の時に必要となるもの

- ヘルメット(防災ずきん) → 噴石や落下物から頭を守る。
- マスク → 細かい火山灰を吸い込むのを防ぐ。
- ゴーグル → 細かい火山灰から目を守る。

主な持ち出し品リスト

必要なものにのしるをつけて、普段から備えておきましょう。

- 着替え、下着類
- 洗面用具、衛生用品
- 手ぶくろ・軍手
- かさ、カップ
- リュックサック
- 毛布・タオル
- 非常食、嗜好品
- 懐中電灯と電池
- 携帯ラジオ、テレビ、電池
- 常備薬、救急箱
- 現金、小銭
- シート、ビニール袋
- ガムテープ(粘着テープ)
- (腕)時計
- 通帳、カード、印鑑、証券など
- 健康保険証
- 携帯電話(充電器など)
- ライター
- ちり紙、ティッシュペーパー
- ほ乳ビン、ミルク、おむつ、母子手帳(赤ちゃんがいる場合)
- お年寄り用常備薬など(お年寄りがいる場合)
- その他個人的な貴重品
- 避難や大切なアルバム、手帳、メガネ、パソコンの重要なデータ、仕事の許可など